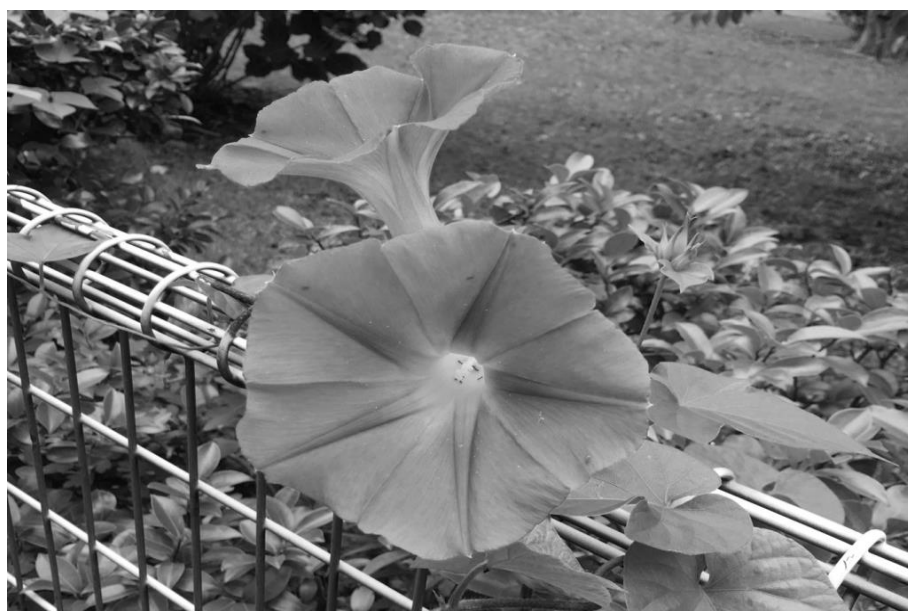


◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成29年度第1・四半期
(平成29年4～6月)



目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 29 年 4～6 月期）	2
（1）今期の特徴点	2
（2）今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
（3）調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 29 年 6 月）	23
4. 特別調査「中小企業の 3～5 年後の事業の見通しについて」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	29

調 査 の 概 要

1. 調査時期 平成 29 年 4 月～6 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	87	87
卸 売 業	27	27
小 売 業	46	45
サ ー ビ ス 業	54	54
建 設 業	35	34
合 計	249	247

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

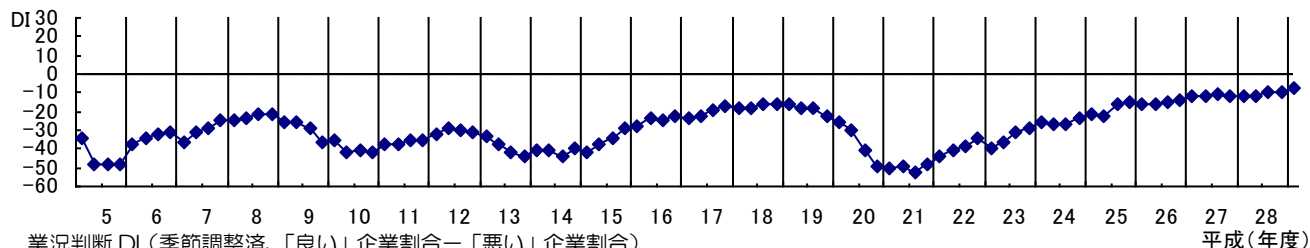
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（平成29年4～6月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

製造業・卸売業、水面下ながらわずかに持ち直す。～小売業・サービス業は前期同様の厳しさが続く～

都内中小企業景況・6業種合計 DI



	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-9.2	-7.4	1.8	-7.1	0.3
卸 売 業	-12.7	-9.0	3.7	-7.9	1.1
小 売 業	-24.7	-25.6	-0.9	-24.5	1.1
サ ー ビ ス	-8.4	-6.9	1.5	-6.0	0.9
建 設 業	11.0	10.8	-0.2	8.7	-2.1
不 動 産 業	5.6	5.2	-0.4	3.6	-1.6
総 合	-9.3	-8.3	1.0	-8.0	0.3

<製造業>

業況は水面下ながらわずかに改善した。売上額・受注残・収益ともに前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は変動なく推移し、原材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「プラスチック」は大きく良好感が強まり、「電気機械」「建設用金属」は大幅にプラスに転じた。「輸送用機械」はやや前期を上回り、「精密機械」は前期並の良好感が続いた。「繊維・衣服」は水面下ながら大きく持ち直し、「一般機械」「プレス・めっき」「ゴム製品」はわずかに厳しさが和らいだ。「化学工業」「金属製品」「木材・家具」「印刷関連」は前期同様の厳しさが続き、「食料品」「紙・紙加工品」「皮革関連」は幾分深刻さを増した。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くともみている。売上額・受注残・収益は今期並の減少が続くと予想している。

<卸売業>

業況は水面下ながらわずかに改善した。売上額、収益は幾分改善した。価格面では、販売価格・仕入価格は多少上昇が弱まった。

業種別では、「機械器具」は多少良好感が強まり、「建築材料」は水面下ながら大きく上向き、「鉱物・金属材料」はわずかに厳しさが和らいだ。「化学製品」は前期並の良好感が続き、「食料品・飲食品」は前期同様の厳しさが続いた。一方、「繊維・衣服」は幾分深刻さを増した。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くとも予想している。売上額はさらに改善し、収益は今期並の低迷が続くとみている。

<小売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益は前期並の低迷が続いた。価格面では、販売価格はわずかに下降を強め、仕入価格はやや落着きを見せた。

業種別では、「カメラ、時計・眼鏡」は水面下ながら大きく持ち直し、「ガソリンスタンド・燃料」「医薬品・化粧品」「家電・家庭用機械」「家具・建具・じゅう器」はやや厳しさが和らいだ。「飲食店」「繊維・衣服・身の回り品」「自転車・自動車」「書籍・文房具」は前期同様の厳しさが続き、「飲食品」は幾分厳しさを増し、「スポーツ用品・玩具」は大幅に深刻さを増した。

来期の業況は、今期同様の厳しさが続くとも予想している。売上額・収益は持ち直すとみている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額はわずかに持ち直し、収益は前期並の低迷が続いた。価格面では、料金価格はほぼ横這いで推移し、材料価格は前期同様の高い水準が続いた。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」はわずかに好転した。一方、「自動車整備・駐車場」「洗濯・理容・美容」は前期同様の厳しさが続き、「娯楽」は大きく業況感が落込んだ。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くともみている。売上額・収益は今期並の低迷が続くと予想している。

<建設業>

業況は前期並の良好感が続いた。売上額・受注残・施工高・収益は前期同様の増加が続いた。価格面では、請負価格は前期並の上昇が続き、材料価格はわずかに上昇が弱まった。業種別に見ると、「職別工事」はわずかに好調感が強まり、「総合工事」は前期並の良好感が続いた。一方、「設備工事」はやや増勢が後退した。

来期の業況は好調感が後退すると予想している。売上額・受注残・施工高・収益は弱含むとみている。

<不動産業>

業況は前期並の良好感が続いた。売上額は多少弱含み、収益は前期同様の増加が続いた。価格面では、販売価格・仕入価格ともに前期並の上昇が続いた。業種別に見ると、「建売・土地売買」はやや好調感が強まり、「不動産代理・仲介」は幾分前期を下回った。

来期の業況は、今期並の良好感が続くともみている。売上額・収益は軟調に推移すると予想している。

【注】

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季調済）D.I・・・本調査における D.I は季調済 D.I を使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去 5 年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。